

せん どう じん ばむ “仙洞院橋”に



仙洞は昔、上皇が住んだ所 そんなイメージの仙洞院橋

総合公園内に建設が進められていた吊橋の名前を募集したところ五十七人・七十七件の応募がありました。橋名選定委員会での協議によって晴れて採用された

のは、仙洞院橋。提案者は大字小橋の柳沢重男さん。小字名が仙洞院であること、そして仙洞とは、その昔上皇または仙人が住んだ場所と語られ、橋のイメージが

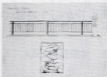
らちもピッタリの感じがしてきます。

橋は総合公園噴水広場から対岸へかけられた長さ四十一メートル、有効幅員二・五メートル、鋼製（ロッキングタワー）の吊橋で、二台の放物線を描いた鉄骨のつくりになっています。

名前をつけてもらった橋も三月二十五日には竣工式、桜の咲くころには橋の上からの眺めを楽しむ人たちにぎわうものと思われます。

また、この総合公園は、昭和五十四年から整備が始められ、多目的広場や野球場、テニスコートなどのか子どもたちの遊具なども数多く設置されるなど整備が着々と進んでいます。今

高欄には「あゆ」の図柄が



後も計画的にいろいろな施設整備を行い、みなさんの真に憩える公園づくりをめざすことにしています。もう少し暖かくなったら、家で弁当持参して出かけてください。一日楽しめることつけ合いです。



自然に浮かんだ
仙洞院橋
柳沢 重男さん

子供のときからの遊び場所、昔ながらのなつかしさから自然と、仙洞院橋、を思い浮かべました。この地名をこんな形で残せてよかったと思います。品があつて格調高いそんな橋が想像されるいい名前ですね。